

## 2022年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 目野 郁子	職名 教授	学位 博士(医学)(九州大学1994年)
----------	-------	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
病原微生物学 免疫学	微生物 感染症 感染対策 ワクチン 抗体

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生支援の一つとして、全学の1年生を対象に健康管理カルテを作成しその有用性について検討を行う。</li> <li>・保育園をモデルに新型コロナウイルス感染症流行前後における感染症対策および小児感染症罹患状況について調査研究を行う。</li> </ul>

担当授業科目
感染と免疫(前期)(看護) 生物と生命科学(前期)(看護) 生物と生命科学(前期)(福祉) 初年次セミナーI(前期)(看護) 初年次セミナーII(後期)(看護) 微生物学(後期)(福祉)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<b>授業科目名【感染と免疫：看護】</b> ① 専門基礎科目としての科目の位置付けや本科目で得た知識を他科目(形態機能学・疾病学他)に連携させる必要性を説明した。 ② 講義は、初学者を対象としているため教科書、パワーポイント、資料などを使い、重要点を繰り返し説明しまた、教科書からの学び(知識)を実習で体験することで強化した。 ③ 感染症のトピックスや法律改正に伴う最新情報は、文献や資料をもとに説明した。 ④ 学習習慣および主体的学習学習を促すために、講義内容を整理するプリント「ポイント整理」を講義進行に伴い10回配布した。学生には教科書や関連する科目と連携させ、まとめるよう指導した。 ⑤ 例年実施している小テストは、早期からの復習を促すために回数を増やし3回実施した。
<b>授業科目名【生物と生命科学：看護】</b> ① 高校の生物の学び直しではなく、大学の学びに必要な生物学としての位置付けで講義を行った。講義は、生物学の基礎知識の修得から始め、いくつかの疾病をモデルに、疾病が生じる原因を形態機能学や疾病学に関連づけ内容を展開した。 ② 初学者である学生を意識し、興味関心を持たせるために身近な疾病モデルを題材に選んだ。難しい内容は、理解しやすい言葉・表現を使い、繰り返し説明した。 ③ 早期からの振り返りと主体的学習を促す意味で、講義進行に併せ講義の重要な点をまとめるための「ポイントの整理」を8回提示した。 ④ 小テストを2回実施し、試験後に問題の解説と成績開示を行い、学びへの意欲・モチベーションを高めるようにした。 ⑤ 学習課題の評価項目に、雑誌・図書を使うことを明記することで、学生に図書館活用を促した。 ⑥ 講義中に質問を受ける時間を設けるとともに、メールなどでも質問を受け付けた。

**授業科目名【生物と生命科学：福祉・栄養】**

- ① 高校で学ぶ生物を基礎に、大学での講義に興味や関心をもてるように、“生活のなかで気づく体の正常なしくみと異常(疾患)”に焦点をあて講義を行った。難しいと思われる内容は、理解しやすい言葉・表現を使い、事例を展開しながら説明した。
- ② 早期からの振り返りと主体的学習を促す意味で、講義進行に併せ講義の重要な点をまとめるための「ポイントの整理」を8回提示した。
- ③ また、小テストを2回実施し、試験後に問題の解説と成績開示をすることで、学びへの意欲・モチベーションを高めるようにした。
- ④ 理解することが難しい内容については、講義開始時に前回の講義の復習を取り入れ、繰り返し説明した。
- ⑤ 学習課題の評価項目に雑誌・図書を使うことを明記することで、学生に図書館活用を促した。
- ⑥ 講義中に学生の反応を見ながら積極的に質問をするよう促した。

**授業科目名【初年次セミナーⅠ：看護】**

- ① グループワーク (GW) の円滑化と GW へのコミットメントを意識させることを目的とし、アイスブレイキングの時間を昨年度よりさらに増幅し、GW の成果を競わせるようなゲーム型の活動を導入した。
- ② 本セミナーの根幹を成す「書く力」養成について：講義概要作成及びミニレポート・レポート作成については一貫して、問いたて→根拠性を持った論理展開 (そのための文献検索) →新規意見 (理論) の提示という構造を意識させることに重点を置いた。そのために、「問いの発見と構想展開図」「レポート作成計画書」の二種類のシートを新たに作成して、活用を促した。特に「問いたて」つまりリサーチクエスションの設定は、レポート作成の起点になるので、重点を置き、講義も追加した。

**授業科目名【初年次セミナーⅡ：看護】**

- ① 初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。
- ② 初年次セミナーⅠで用いた課題発見やレポート作成計画書は引き続き活用し、グループ小冊子の構成を考えるためのワークシートについては、小冊子全体を効果的に捉えられるようにブラッシュアップした。
- ③ 発表準備の時間を十分確保できるように、グループ小冊子作成までの流れを見直し、プレゼンテーションに充てる時間を1コマ増やした。
- ④ 学習内容・進度にあわせて2コマ続きの講義も交えた進行を行い、発表・まとめを12月中に終了するようにした。そのため学生はポートフォリオ提出までの時間的余裕ができた。
- ⑤ プレゼンテーションの評価表について、見直し・修正を行った。
- ⑥ 発表時の評価は、担当者5名で実施した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。学生・教員による評価をもとに、優秀賞を選出し発表の場を設けた。

**授業科目名【微生物学：福祉】**

- ① 今年度は、講義形式がオンラインから対面に戻った。学生の講義姿勢・状況をよく把握しながら講義を進めた。
- ② 講義内容が多いため、特に学校現場や福祉施設で必要な内容を意識し講義を行った。感染症については、具体的な事例をもとに平易な言葉を使い説明するよう心がけた。
- ③ 内容が理解しやすいように、教科書で説明しスライドを見せる、逆にスライドをみせて教科書でまとめる、と2パターンを使い分け講義を進めた。
- ④ 例年、早期より復習を促すために重要点をまとめるよう指導している。ポイントの整理として classroom にアップし、学生がいつでも取りかかれるようにした。
- ⑤ 授業中に小テストを実施しているが、試験後に必ず解説を行い、classroom を使い個別に成績を知らせた。また、質問も適宜受けた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
----------	-----------	------

日本細菌学会 日本感染症学会 日本小児保健協会 日本環境感染学会 日本ワクチン学会	1987年4月～現在に至る 1996年4月～現在に至る 2000年4月～現在に至る 2004年4月～現在に至る 2016年4月～現在に至る
---	---

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 病原体・感染・免疫	共	2022.2	南山堂 改訂3版7刷	① 医療系の学生および医療従事者の方々を対象に病原体・感染・免疫を学ぶための書籍である。治療薬、疾患の流行状況、ワクチン接種スケジュールなどを最新のものに更新し、内容の追加や修正をおこなった。 ② 藤本秀士, 目野郁子, 小島夫美子 ③ 担当部分 第4章 感染症の予防と制御対策・技術 (P91～P128) 総頁数 P396 ④ B5版
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) 保健福祉学研究所報告会 本学の学生を対象にした「健康管理カルテ」の作成	共	2023.3	西南女学院大学保健福祉学部 附属保健 福祉学研究所	① 本学学生の健康維持・増進に向けた学生支援の取り組みとして「健康管理カルテ」を作成し、2021年度保健福祉学部入学生および2022年度大学部・短期大学部入学生へ配布した。また、本年度の使用状況について調査した。その結果、本学学生は健康管理カルテを体調不良時や実習前に活用していることが明らかとなった。また、学生にとってより利用しやすくなるよう今後の健康管理カルテの運用方法について考察した。 ② 水貝洵子, 山田恵, 樋口由貴子, 目野郁子, 高崎智子, 大内田知英 ③ 2022年度西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所報告会  教育研究業績 (2022.4.1-2023.3.31日現在) 著書 1 (内訳 単0 共1) 学術論文 0 (内訳 単0 共0) 報告書 0 (内訳 単0 共0) 研究所報告会 1 (内訳 単0 共1)

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
本学の学生を対象にした「健康管理カルテ」の作成	西南女学院大学 保健福祉学部 附属保健福祉学研究所 研究費	○水貝洵子 山田恵 樋口由貴子 目野郁子 高崎智子 大内田知英	300,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・福岡県食品安全・安心委員会 福岡県知事の附属機関である「福岡県食品安全・安心委員会」において、食品の安全・安心の確保に関する基本計画等について調査審議する。	委員	2021年5月1日～2023年4月30日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人事委員会委員 2017年4月1日～ 現在に至る 人事委員会委員長 2021年4月1日～ 現在に至る</li> <li>・ 動物実験委員会委員 2016年4月1日～ 現在に至る</li> <li>・ 保健福祉学部附属保健福祉学研究所運営委員 2003年4月1日～ 現在に至る</li> <li>・ 外部資金促進導入プロジェクト 2021年4月～ 現在に至る</li> <li>・ 看護学科推薦入試合格者に対する入学前課題担当 課題提示と提出された課題の評価及び面談により個別学修支援を行う。2009年～現在に至る。</li> <li>・ 学生の健康支援 保健室と協働し看護学科および助産別科の1年生を対象に、毎年学科毎にワクチンで予防</li> </ul>

可能な感染症について感染症予防の説明を行ない（予防接種手帳配布・抗体検査結果配布）、予防接種が必要な学生には個別に面談し接種勧奨を行なっている。2011年～現在に至る。